

FUJIFILM

作成日 2007年 2月27日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : CN-16H N2
(CN-16H N2: カラーフィルム処理用漂白剤)

会社名 : 富士フイルム株式会社

住所 : 〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

担当部門 : イメージング事業部 商品技術部

電話番号 : 03-3406-2835 FAX番号 03-6418-2446

緊急連絡先: (財)日本中毒情報センター (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)

電話番号 : 中毒110番(無料) 大阪 072-727-2499(24時間) つくば 029-852-9999(9時~21時)

整理番号 : EG126614G

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

金属腐食性物質 区分1 (ラベル要素の危険有害性情報の項を参照)

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分5 (ラベル要素の危険有害性情報の項を参照)

皮膚腐食性/刺激性 区分外

眼に対する重篤な損傷性/刺激性 区分2 B (ラベル要素の危険有害性情報の項を参照)

感作性-呼吸器 区分1 (ラベル要素の危険有害性情報の項を参照)

標的臓器/全身毒性(単回暴露) 区分1, (ラベル要素の危険有害性情報の項を参照)

区分2, (ラベル要素の危険有害性情報の項を参照)

区分3 (ラベル要素の危険有害性情報の項を参照)

*危険/有害性の大きさ: 区分は、数字の小さいほど危険性/有害性が高い。

*記載がないものは、分類対象外または分類できない。

ラベル要素

(絵表示)



腐食性



健康有害性



感嘆符

(注意喚起語)

危険

(危険有害性情報)

金属腐食のおそれ(区分1)

飲み込むと有害のおそれ(区分5)

眼刺激(区分2 B)

[酢酸]

吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ(区分1)

臓器(血液)の障害(区分1(単回))

臓器(呼吸器系)の障害のおそれ(区分2(単回))

〔硝酸アンモニウム〕

臓器(血液)の障害のおそれ(区分2(単回))

呼吸刺激を起こすおそれ(区分3(単回))

*区分(単回): 特定標的臓器・全身毒性-単回暴露の区分を示す

日化協「GHS対応ガイドライン」(改正労働安全衛生法にも対応)に準じた表記になっています。

(注意書き)【予防策】

他の容器に移し替えないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。

【対応】

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

暴露した時、または、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること

物的被害を防止するため流出したものを吸収すること。

【保管】

耐腐食性容器/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を国際/国/県都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

国・地域情報

: 「15. 適用法令」の項 参照

その他の危険有害性

: 特になし

3. 組成、成分情報

<原則として1%以上含有する成分を記載しています>

単一製品・混合物の区別: 混合物

化学名:

成分名称	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	GHS 分類 寄与成分
PDTA鉄アンモニウム【安衛通知】	10 - 20	111687-36-6	2-3595	
臭化アンモニウム	7 - 15	12124-97-9	1-106	
酢酸アンモニウム	3 - 7	631-61-8	1-391	
グリコール酸	1 - 5	79-14-1	2-1346	
酢酸【安衛通知】	1 - 5	64-19-7	2-688	
硝酸アンモニウム【安衛通知】	1 - 5	6484-52-2	1-395	
水	50 - 70	7732-18-5	対象外	

分子式 (CAS No.) : C₁₁H₁₄FeN₂O₈.H₄N(111687-36-6), NH₄Br(12124-97-9),
C₂H₄O₂.H₃N(631-61-8), C₂H₄O₃(79-14-1), C₂H₄O₂(64-19-7),
H₃N.HNO₃(6484-52-2), H₂O(7732-18-5)

*○はGHS分類に寄与する成分

注: 化学物質名称の後の【】の中に以下の情報を記載しています(記載のない場合は非該当です)。
「PRTR 特1」は、化学物質管理促進法 特定第一種指定化学物質、
「PRTR 1」は同法 第一種指定化学物質、
「PRTR 2」は同法 第二種指定化学物質、
「安衛通知」は労働安全衛生法の通知対象物を指します。
なお、化学物質管理促進法に該当する物質の場合、同法別表中の政令番号を併記しています。

4. 応急措置

吸入した場合	: 直ちに被災者を空気の新鮮な場所に移し、安静につとめる。その後、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに石鹼を用いて大量の水で十分に洗い流す。汚染された衣服等は、十分洗浄した上で使用する。痛みが残る場合は医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	: 直ちに清浄な流水で数分間目を洗浄したのち、眼科医の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 水で口の中をよく洗ったのち、気持ちが悪いようであれば医師の手当てを受ける。
応急措置をする者の保護	: 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤	: 水、炭酸ガス、粉末消火器、泡沫消火器等を使用する。
使ってはならない消火剤	: 通常の下では、不適切な消火剤はない。
特有の消火方法	: 周辺火災の場合は、可能ならば速やかに容器を安全な場所へ移す。 関係者以外は速やかに安全な場所に退去させる。 漏出した物質や消火用水等が、河川等に排出されないように配慮する。
消火を行う者の保護	: 消火作業では、適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 作業の際には適切な保護具を着用する。(「8. 暴露防止及び保護措置」の項 参照)

環境に対する注意事項

: 廃液が河川等に排出されないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

: 漏洩した薬品を適切な方法で回収したのち、漏洩箇所を大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

: 皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないようにする。取扱い後に、手や顔等をよく洗う。

局所排気・全体換気

: 作業場は換気を十分に行う。

注意事項

:

安全取扱い注意事項

: 作業後には、手、顔等をよく洗う。

保管

適切な保管条件

: 直射日光を避け、密栓して保管する。

混触禁止物質

: 塩素系漂白剤(次亜塩素酸塩)又は強アルカリ

安全な容器包装材料

: 十分な強度を有するプラスチック容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

: 作業場は換気を十分に行う。また、作業場の近くには手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。

含有成分の管理濃度・許容濃度

成分名称	CAS No.	厚生労働省告示 管理濃度	日本産業 衛生学会	ACGIH TLV
PDTA鉄アンモニウム【安衛通知】	111687-36-6	設定値なし	設定値なし	設定値なし
臭化アンモニウム	12124-97-9	設定値なし	設定値なし	設定値なし
酢酸アンモニウム	631-61-8	設定値なし	設定値なし	設定値なし
グリコール酸	79-14-1	設定値なし	設定値なし	設定値なし
酢酸【安衛通知】	64-19-7	設定値なし	10ppm 25mg/m3	15 ppm STEL, 10 ppm TWA
硝酸アンモニウム【安衛通知】	6484-52-2	設定値なし	設定値なし	設定値なし

保護具

呼吸器の保護具

: 必要に応じて、適切な呼吸用保護具を着用する。

手の保護具

: 適切な保護手袋を着用する。

眼の保護具

: 安全眼鏡を着用する。必要に応じて顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

: 必要に応じて適切な保護衣を着用する。

適切な衛生対策

: 作業中は飲食、喫煙はしない。飲食、喫煙前には石鹸で手を洗う。

9 . 物理的及び化学的性質

外観

形状	: 液体
色	: 暗緑色
臭い	: ほぼ無臭
pH	: 4.0 (25)
融点/凝固点	: ~0
沸点・初留点と沸騰範囲	: ~100
引火点	: データなし (引火性はない)
自然発火温度(発火点)	: データなし (可燃性はない)
燃焼性または爆発範囲の限界	下限 : 該当せず
	上限 : 該当せず
蒸気圧	: データなし (データなし)
蒸気密度	: データなし
比重(相対密度)	: 1.181
溶解性(対水)	: データなし (易溶)
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし

10 . 安定性及び反応性

安定性	: 通常の使用条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 塩素系漂白剤(次亜塩素酸塩)又は強アルカリと混合すると有害な刺激性ガスが発生する懸念がある。
避けるべき条件	: 直射日光、凍結
混触危険物質	: 塩素系漂白剤(次亜塩素酸塩)又は強アルカリ
危険有害な分解生成物	: アンモニア、窒素酸化物 一酸化炭素、炭酸ガス
その他情報	: 金属を腐食する

1 1 . 有害性情報

製品に関する情報**急性毒性**

急性経口毒性(経口LD50) : >2000 mg/kg

試験動物 : ラット

急性経皮毒性(経皮LD50) : データなし

試験動物 : データなし

皮膚腐食性/刺激性 : 刺激性なし

(一次刺激性イテックス(P.I.I.):データなし)

試験動物 : データなし

目(眼)に対する重篤な損傷/刺激性 : 軽度の刺激性

(急性眼刺激指数:データなし)

試験動物 : データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性 : データなし

試験動物 : データなし

その他情報 : 特になし

1 2 . 環境影響情報

生態毒性 : データなし

魚毒性 (データなし) : データなし

試験生物種 : データなし

甲殻類に対する毒性(データなし) : データなし

試験生物種 : データなし

藻類に対する毒性 (データなし) : データなし

試験生物種 : データなし

残留性・分解性 : データなし**生体蓄積性** : データなし**土壌中の移動性** : データなし

1 3 . 廃棄上の注意

自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。

廃棄時に該当する法規【廃棄物処理法 : 産業廃棄物(廃酸)、水質汚濁防止法 : 生活環境項目、下水道法 : 下水の排除の制限】

1 4 . 輸送上の注意

緊急時応急措置指針番号 : 154

船舶輸送は、危規則の規定による。 航空輸送は、IATA規則の規定による。

----- 海上輸送もしくは航空輸送を行う場合は以下の情報を輸送会社にお渡し下さい。 -----

Marine Transportation

Class or Division : Class 8, Corrosive

UN-No. : UN1760

Proper Shipping Name : Corrosive liquid, n.o.s.
(PDTA ferric ammonium)

Packing Group : III

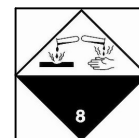
Subsidiary Risk : None

Marine pollutant : None

Packing Instructions : P001/LP01

EmS(Emergency Schedule) : F-A, S-B

Further Information : Do not allow any contact with light metals - danger of corrosion.



Air Transportation

Class or Division : Class 8, Corrosive

UN-No. : UN1760

Proper Shipping Name : Corrosive liquid, n.o.s. (PDTA ferric ammonium)

Packing Group : III

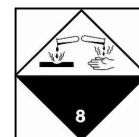
Subsidiary Risk : None

Label(s) : Corrosive

Passenger and Cargo Aircraft : Packing Instruction 818 max. 5L

Cargo Aircraft Only : Packing Instruction 820 max. 60L

Further Information : Do not allow any contact with light metals - danger of corrosion.



1 5 . 適用法令

下記参照

主な適用法令

化審法 特定化学物質 : 該当なし

指定・監視化学物質 : 該当なし

安衛法 危険物 : 該当なし

特化則 : 該当なし

有機則 : 該当なし

通知対象物 : 酢酸、PDTA鉄アンモニウム、硝酸アンモニウム

表示対象物 : 硝酸アンモニウム

毒劇法 : 該当なし

消防法 : 該当なし

化学物質管理促進法 (PRTR法) : 該当なし

船舶安全法 : その他の腐食性物質 (クラス 8)

航空法 : その他の腐食性物質 (クラス 8)

16 . その他の情報

記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価について完全性を保証するものではありません。危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。注意事項は当製品についての通常の取り扱いを対象にしたものであって、それ以外については、ご使用者の責任において安全対策を実施の上お取り扱い願います。

本MSDSは、JIS Z7250:2005に基づく日本化学工業協会のMSDS作成指針に従って作成したものです。

作成部門:富士フィルム(株) CSR推進部 環境・品質マネジメント部